



## 長期ビジョン推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金  □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 5 ともに進める(総合力) ] 政策 [ 17 「チームふくい」の行政運営 ]	関連する県の計画等		[ ]								
[解決すべき問題・課題]  長期ビジョンが目指す将来像の実現に向け、県民への長期ビジョンの周知および県民アクションの喚起						[問題・課題を表す客観的データ]  ・長期ビジョンの認知割合(令和3年度) 34.6%(前回から+9.7%) ・前回から認知割合は伸びているものの、若い世代を中心に引き続き周知が必要(年齢別の認知割合 18~20代 19.9%、30~50代 24.4%、60代 45.2%)						
[事業目的]  令和2年7月に策定した福井県長期ビジョンが目指す将来像を県民が共有し、「チームふくい」で実現するため、県民に広く長期ビジョンを周知するとともに、ビジョン実現に向けた県民活動を促進する。また、長期ビジョンおよびふくい創生・人口減少対策戦略に基づいて実施する事業の進捗管理、効果検証を行う。												
[事業内容]  ○長期ビジョン推進会議の開催 ○県民アンケートによる県民意識調査の実施 ○長期ビジョン現場deトーク・ワークショップ等の開催 ○チャレンジ政策提案に関する必要経費への支援												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	ビジョン策定に当たり、県内すべての市町で市町別意見交換会を開催(令和元年8~9月)					他県の状況	—					

# 長期ビジョン推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県			事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度	
事業実施方法	直営、委託								経過年数			
補助率	-								5 年			
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,075				3,075							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			7,468	4,096	3,528	3,075	・ 推進会議開催経費の減額					
2月現計予算額の推移		6,614	7,468	4,096	3,528							
決算額の推移		5,461	6,608	3,381								
前年度までの 主な増減理由	令和元年度 6月補正から事業開始 令和3年度 ビジョン策定による印刷経費等の減額 令和4年度 セミナー開催経費、ビジョン増刷経費の減額											
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ワークショップ等の参加者数	(2,500)	(2,500)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	現場deトークやFUKUI未来トークなどの参加者数			
		4,626	2,761	3,151	3,170							
活動指標	ワークショップ等の開催	(25)	(25)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	現場deトークやFUKUI未来トークなどの開催数			
		46	28	34	30							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価			実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
・ 新型コロナの影響により、対面形式でのワークショップ等の開催が困難な時期もあったが、オンラインも活用して開催した。			・ 推進会議開催経費を減額				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
							<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	453		
							<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## SDGs 推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区 分	■ 自 治 事 務  □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	■ 実行予算	事業 開 始 年 度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託							□ 補助金		経過年数		
補助率	-							□ その他		4 年		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 5 ともに進める(総合力) ] 政策 [ 17 「チームふくい」の行政運営 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsパートナーの拡大</li> <li>・パートナー同士の連携・協働の促進</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくいSDGsパートナー」登録数：918機関（令和5年2月末現在）</li> </ul>						
[事業目的]												
県民が主役となり、持続可能で多様性のある社会を実現するため、SDGsの理念を県民に普及するとともに、その達成に向けた行動を促進する。												
[事業内容]												
<p>(1) SDGsの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくいSDGsパートナー」登録制度の運営</li> <li>・「ふくいSDGs月間（ジュナナ・チャレンジ）」の実施</li> <li>・フォーラムの開催</li> <li>・パートナーの活動PR資料の作成・公開</li> </ul> <p>(2) 地域課題解決に向けたパートナーの連携・協働の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくい未来人材育成プロジェクト」の実施</li> <li>・パートナー活動応援金の交付</li> <li>・「SDGsコーディネーター」の設置によるパートナーの連携促進</li> </ul>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	-					他県の状況	-					

## SDGs 推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託									経過年数		
補助率	-									4 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	16,315	2,757			13,558	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			1,058	4,462	5,979	16,315	・「SDGsコーディネーター」設置に関する事業の追加による増額					
2月現計予算額の推移			1,058	2,231	5,479							
決算額の推移			917	2,223								
前年度までの 主な増減理由	令和3年度 公式ロゴ愛称募集経費、パートナーへの応援金の増額 令和4年度 未来人材育成プロジェクト経費の増額											
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	SDGsパートナーシップ会議参加企業・団体数 (目標) 実績		(150) 310	(300) 617	(850) 918	(1,000)	(1,000)	(1,000)	民間のSDGs達成に向けた行動を促進するため、会議に参加する企業・団体数の拡大を図る。（「ふくいSDGsパートナー」登録数の累計）			
活動指標	県・民間団体の活動内容の広報 (目標) 実績		(1) 2	(10) 72	(10) 104	(10)	(10)	(10)				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・「福井県SDGsパートナーシップ会議」を創設しに参画する企業・団体等を「ふくいSDGsパートナー」として募集・登録（登録数：918機関（令和5年2月末現在）） ・10月SDGsフォーラムを開催（参加者：146名）				・「SDGsコーディネーター」設置に関する事業の追加による増額				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

# ふくい政策デザイン推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営			経過年数								
補助率	—			4 年								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 5 とともに進める(総合力) ] 政策 [ 17 「チームふくい」の行政運営 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題] 経済のグローバル化やAI・IoTなどの技術革新、ニューノーマル・LGBTなどの多様な価値観の進展など、行政を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、従来のアプローチのみによる政策立案には限界があり、デザイン思考の導入など新たな手法が求められている。						[問題・課題を表す客観的データ] —						
[事業目的] 長期ビジョンに掲げる「デザインの力を活かし政策の質を向上させる」考え方に、人の意思決定の癖を用いて望ましい行動を促す「ナッジ理論(行動経済学)」を組み合わせ、利用者目線で解決の道筋を描くことで政策の質を高める。												
[事業内容] 政策デザインの推進 ・ 県内デザイナーとともに真の課題や解決すべきことは何かを顕在化させる現場リサーチやワークショップを実施 ・ 県政の重要課題について、県内デザイナー等と意見交換するミーティングを開催 ・ 政策デザインの推進における総合的なディレクションやアドバイス業務を担うアドバイザーを配置 ・ 本件独自の政策立案手法や事業効果の全国発信、社会的な課題解決のデザインを実践しているクリエイター等の講演会の開催 ・ 政策デザインに関する職員同士の勉強会や研修の実施												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	—					他県の状況	【参考】 ・ 佐賀県(さがデザイン) 外部のデザイナーやクリエイター、コンサルタント等とのネットワークを構築し、事業・施策の相談窓口として福祉、教育、産業などあらゆる部局にわたるプロジェクトにデザインの視点を導入					

# ふくい政策デザイン推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営									経過年数		
補助率	—									4 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,523				2,523							
[予算額の推移等]												(単位：千円)
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			5,529	2,554	4,225	2,523	・政策ナッジに関する経費を増額 ・政策デザインミーティング経費を減額					
2月現計予算額の推移			4,745	2,554	3,250							
決算額の推移			3,920	2,257								
前年度までの主な増減理由	令和3年度 職員研修を減額 令和4年度 県政の重要課題に関するデザイナーとの意見交換会の経費、職員の意識向上のための研修経費を増額											
[成果指標等の推移]												
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	「政策デザイン」相談を経た事業のブラッシュアップ件数	(目標)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	相談件数のうち約1/3程度について、仕様設定の段階から事業をブラッシュアップして執行			
活動指標	「政策デザイン」相談件数	(目標)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	県民参加型の政策で、これまでとは異なる発想や新たなアイデアを必要とする事業を各部局3件程度			
実績			11	10	10							
実績			31	26	28							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・政策デザインワークショップを28回開催し、10事業についてブラッシュアップした。 ・政策デザインの活用について庁内で周知を図っているものの、政策デザインの仕組みになじむ県政課題の発掘が課題となっている。				・案件の掘り起こしおよび課題解決に努めるとともに、ナッジ考案に向けた専門家への相談などを通して、デザインの考え方とナッジ理論を組み合わせ、利用者目線を徹底した政策立案による政策の質の向上を目指す。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,702	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 政策立案のためのデータ分析・調査事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算  □ 補助金  □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 5 ともに進める(総合力) ] 政策 [ 17 「チームふくい」の行政運営 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題] ・首都圏や関西圏への人口流出により本県の社会減の数は近年悪化の傾向 ・本県の状況は全国と異なる動きにあり、有効な対策を実施するためにはデータサイエンスに関するスキルを持つ人材による調査分析が有効						[問題・課題を表す客観的データ] <社会減> H26 : ▲2,246人⇒H30 : ▲2,159人 ⇒R1 : ▲2,832人⇒R2: ▲2,308人⇒R3: ▲2,096人						
[事業目的] 人口データ分析のスキルをもつ専門家による人口減少の実態等の調査分析を実施し対策に活用する。												
[事業内容] (1) 人口減に関する本県特有の要因や構造的課題を調査分析 (2) 分析データや国内外の事例を踏まえ、解決策を提案												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	—					他県の状況	—					



## 政策立案のためのデータ分析・調査事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県			事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R5 年度	R5 年度
事業実施方法	委託								R2 年度			
補助率	-								経過年数 4 年			
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,200				2,200							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			4,815	2,200	2,200	2,200	-					
2月現計予算額の推移			4,815	2,200	2,200							
決算額の推移			4,425	2,200								
前年度までの主な増減理由	令和3年度 委託件数見直しに伴う減額（2件→1件）、委託先選定にかかる経費を減額											
[成果指標等の推移]												
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	政策提案	(目標)	(2)	(1)	(1)	(1)			年1回			
		実績	2	1	1							
活動指標	アンケート調査等	(目標)	(2)	(1)	(1)	(1)			年1回			
		実績	2	1	1							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
○横浜市立大学(令和2～3年度、自然減・社会減に関するデータ分析の結果を踏まえ、社会減対策に関するデータ分析を実施) ・就業構造基本調査マイクロデータの分析や都市部在住者等へのWebアンケート調査を新規に実施し、結果を分析 ・上記を踏まえた、社会減対策の方向性提案				・令和2～4年度の実績を踏まえて、異なる視点での人口減対策の分析を新たに実施				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 政策企画調整費

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金  □ その他	事業 開始 年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営			経過年数								
補助率	—			5 年								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 5 ともに進める(総合力) ] 政策 [ 17 「チームふくい」の行政運営 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題]  県政の課題への対応や新たな政策立案を迅速に実施していく必要がある						[問題・課題を表す客観的データ]  —						
[事業目的]  新たな情報収集と政策づくりの仕組みの構築や政策参事会などでの部局横断的な検討の推進等により、政策課題の解決や全国のモデルとなる先進施策を立案する。												
[事業内容]  (1) 政策企画コーディネーターの活用 ・ビジネスや地域づくり、最新技術等の分野の最前線で活躍する人材を委嘱し、適時の情報提供と企業等とのマッチング、調査依頼への対応などを実現する 新たな情報収集と政策づくりの仕組みを構築 (2) 政策会議 ・各分野における県内外の有識者・第一人者をリストアップし、知事・部局長等が機動的に意見交換。提言を踏まえて新施策・事業を立案・実行 (3) 政策参事会 ・部局横断型の政策参事会により、新施策・事業を立案・実行												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 政策推進マネジメントシステム強化事業 (実績)  政策アドバイザーなど有識者との意見交換や部局横断の政策参事会における政策検討により、新政策の立案・事業化を促進					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	—					他県の状況		—				

# 政策企画調整費

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課	課長名	田中秀和	
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度 R1 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R5 年度	
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	6,000				6,000							
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	4,420	1,960	6,000	6,000	6,000	—						
2月現計予算額の推移	2,345	1,960	6,000	5,023								
決算額の推移	1,244	1,367	4,793									
前年度までの主な増減理由	令和2年度 執行実績による減額 令和3年度 政策企画コーディネーター経費の増額											
[成果指標等の推移]												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標) 実績							課題に対応するための意見交換等を実施する事業であり、成果指標の設定にそぐわない。関係部局と連携し、政策課題を解決する施策立案に努める。				
活動指標	(目標) 実績							課題に対応するための意見交換等を実施する事業であり、活動指標の設定にそぐわない。関係部局と連携し、政策課題を解決する施策立案に努める。				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・政策企画コーディネーターの持つノウハウや人脈を活かし、公共交通活用の意識醸成を図るカードゲームの作成などを進めた。				・引き続き、政策企画コーディネーターの持つノウハウや人脈を活かし、新しい政策づくりを進めていく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 首都圏・関西圏における交流拡大事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題] ・北陸新幹線の開業に向け積極的に露出を高め知名度を向上させる必要がある。また、福井県出身の経営者や学生のネットワークを強化し、関係人口の創出が必要。 ・フリーランス向けのUIターンや、IT企業向けのサテライトオフィス誘致を展開したいが、本県とゆかりのない企業等には接点がないため説明の機会を逃している。						[問題・課題を表す客観的データ] ・全国魅力度ランキングで、37位と下位に位置している。 ・東京における企業訪問件数が、近年コロナ禍により、昨年度は150件程度に落ち込んでいる。						
[事業目的] 福井への企業誘致、観光誘客、UIターンや販路拡大につなげるため、首都圏・関西圏における企業・マスコミ等や県内出身学生とのネットワーク強化を図る。												
[事業内容] (1) コミュニティ型ワークスペースを拠点とした新たな人的ネットワーク構築 (2) 福井県勤務経験者や福井県出身学生等と協力した福井県の魅力発信												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	コミュニティ型ワークスペースで開催するサテライトオフィス説明会や販路拡大等の県主催イベントに各市町にも参加を呼びかけ、協働して福井をPRする。					他県の状況		本県以外に茨城県、神奈川県、静岡県、愛知県、兵庫県が入居しているほか、政令市を中心に9市町が入居しており、情報交換等を行っている。				

## 首都圏・関西圏における交流拡大事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営									経過年数		
補助率	—									4 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,161				3,161							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			4,198	5,801	5,932	3,161	・ 拠点契約料の見直しによる減額					
2月現計予算額の推移			2,099	3,702	4,416							
決算額の推移			1,344	2,993								
前年度までの 主な増減理由	令和3年度 大阪での新規拠点契約における使用料を増額 令和4年度 拠点契約料の見直しによる減額、オンライン名刺管理システム導入に伴う増額											
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	企業立地を検討する企業等との個別面会・商談、市町への紹介件数 (目標) 実績		(90) 28	(90) 24	(90) 55	(90)	(110)	(135)	東京事務所60件、大阪事務所30件			
活動指標	福井県勤務経験者や県出身学生とのネットワーク構築 (目標) 実績		(200) 20	(200) 59	(200) 125	(200)	(240)	(300)				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年2月以降、WeWork内でのイベントにおいて、飲食の提供中止や参加人数の制限等、活動が限定されているが、オンラインイベントに参加するなど、情報収集や企業等と交流				・ 交流する機会を増やすため拠点契約を見直し				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	2,771	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 関西・中京圏の学生グループによる福井応援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略 ]				関連する県の計画等		[ ]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面での交流ができない状況下での、県出身学生ネットワークの維持・拡大継続の方法</li> <li>・関西・中京圏在住の県出身学生同士や、学生と県内企業とが、実際に面会する機会の創出</li> </ul>						令和2年度 新ふくい人 1,004人 (令和6年度目標 1,200人)						
[事業目的]												
関西・中京圏在住の県出身大学生のネットワーク化を図るとともに、学生による福井県の情報発信等の活動を支援し、関係人口増そして将来的なUIターンにつなげる。												
[事業内容]												
県出身大学生の学生ネットワークの拡大、学生と県内企業とのつながりの強化 (1) 学生向けセミナーの開催 (2) オンラインビジネスプラン作成会の実施												
[受益者] 関西・中京圏在住学生、県内企業等						[想定される受益者数] 200人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 関西の学生グループによる福井応援事業(交流文化部) (役割分担) (学生による福井県の情報発信活動を支援) 学生記者による県内企業や県内での働き方の魅力を発信 学生記者の募集や情報発信に、学生グループのネットワークを活用					
市町との連携状況	—					他県の状況	—					

## 関西・中京圏の学生グループによる福井応援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	地域戦略部	課名	未来戦略課		課長名	田中秀和		
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金  □ その他	事業 開始 年度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度		
事業実施方法	直営												経過年数	3 年
補助率	—													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額														
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>														
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移			1,609	880	954									
2月現計予算額の推移			0	880	954									
決算額の推移			0	108										
前年度までの 主な増減理由	令和3年度 オンライン中心の事業内容への変更による減額													
[成果指標等の推移]														
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	(目標) 実績								学生ネットワークの強化・組織化に係る予算のため、目標の設定にそぐわない。事業実施においては、関係部局と連携し情報発信の強化やUIターン促進に努める。					
活動指標	ビジネスプラン作成会の 実施 実績			(5) 7	(7) 11							ビジネスプラン作成会に参加した関西・中京圏在住学生のグループ数		
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価			実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価							
<p>・今年度はこれまでの大阪事務所に京都事務所、名古屋事務所を加え関西および中京圏でビジネス作成会を実施し、令和4年度末時点で、11チーム126名の学生が参加し、学生同士の関係強化と県内企業等との協業機会を創出した。</p> <p>・また、10月に名古屋、1月に大阪でセミナーを開催し、県内の先進的な取り組みを学ぶ場を学生に提供し、UIターンを考える場となった。</p>			—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
							<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了					
							<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

## 嶺南振興プロジェクト枠予算

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部内	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	久世東洋晴	
事業主体	県、市町				事務 区 分	■ 自 治 事 務  □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営、補助											
補助率	1/2											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 9 100年に一度のまちづくり ]				関連する県の計画等		[ 福井県長期ビジョン、行財政改革アクションプラン、 福井県高速交通開通アクション・プログラム 他 ]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井・敦賀開業、大阪までの早期全線開業に向け、嶺南振興局が果たす役割がこれまで以上に高まる中、観光や地域振興、交通体制の整備など、嶺南地域の様々な課題への総合的な対応が必要						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が低い。 令和3年度観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 6,462千人(28.3%) 福井県全体 22,848千人						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業、さらには大阪までの早期全線開業に向け、嶺南振興局が独自の予算を持つことにより、観光振興等の地域課題に対し、迅速に対応する。												
[事業内容]  (1) ハード枠 北陸新幹線開業に向け、これまで安全安心を最優先にしてきたため対応できていなかった観光地周辺の道路補修や景観整備を嶺南振興局長の権限で執行  (2) 政策トライアル枠 嶺南振興局長の権限において試行できる枠予算で、成果を踏まえ、次年度の新規事業を立案												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 646万人(R3)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 土木部枠県単 (役割分担) 土木部枠県単は安全安心を最優先し、事業を実施する。嶺南振興プロジェクト枠では、北陸新幹線開業に向け、対応できていなかった観光地周辺の道路補修や景観整備事業を実施する。					
市町との連携状況	関係市町から意見を聞くなど、連携しながら事業を実施している。				他県の状況		・岡山県 ハード枠 3.1億、ソフト枠0.15億(補助あり) ・鹿児島県 ハード枠 0.8億(補助)、ソフト枠0.2億(補助あり) など					



## 嶺南振興プロジェクト枠予算

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部内	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	久世東洋晴				
事業主体	県、市町				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度	
事業実施方法	直営、補助											経過年数			5 年
補助率	1/2											5 年			5 年
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等									
予算額	160,000				160,000										
[予算額の推移等]												(単位：千円)			
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移		100,000	160,000	160,000	160,000	160,000	-								
2月現計予算額の推移		100,000	160,000	160,000	160,000										
決算額の推移		92,434	156,596	158,590											
前年度までの 主な増減理由	令和2年度 北陸新幹線福井・敦賀開業の効果を嶺南全域に波及させるため、また、その先の大阪延伸までを見据えた地域づくりが急務であることから事業費が増加														
[成果指標等の推移]															
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	(目標) 実績								観光振興等の地域課題に迅速に対応するための事業であり、成果指標の設定にそぐわない。市町の意見等を聞きながら観光地周辺の道路修繕や景観整備等を実施し、魅力向上等に努めたい。						
活動指標	(目標) 実績														
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価							
・ハード枠については、観光地周辺の道路補修や景観整備を実施した。 ・政策トライアル枠については、主に観光振興、農林水産業振興の事業を実施し、令和5年度当初予算において、1件の新規施策（新規事業1件）に繋がった。				・引き続き、嶺南市町の意見等を聞きながら、地域の様々な課題等に迅速、柔軟に対応していく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

## 農産物の販路拡大支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	農業経営支援部	課長名	畑中康孝	
事業主体		民間事業者			事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法		補助										
補助率		1/2										
福井県長期ビジョンにおける位置付け		分野 [ 2 成長を創る (産業力) ] 政策 [ 5 農林水産業の力で福井をブランドアッコ ]			関連する県の計画等		[ 新ふくいの農業基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
嶺南地域では、大規模園芸施設を中心とした生産拡大に伴い、増加した園芸生産物のさらなる販路拡大が必要とされている。						大規模園芸施設を中心に増加した園芸生産物の販路が限定されており、平成29年度以降、嶺南地域における園芸算出額が横ばいになっている。 平成29年度: 15億円、平成30年度: 16億円、令和元年度: 15億円、令和2年度: 18億円						
[事業目的]												
嶺南地域の農産物等の販路拡大や知名度向上を図るため、県内事業者が行う県外へのアンテナショップや飲食店等の開設を支援する。												
[事業内容]												
○県内事業者が行う県外へのアンテナショップや飲食店等の店舗整備、設備導入に対する支援を実施 事業期間 令和元年度～4年度 補助率 県1/2 補助上限額 300万円 (店舗売上が年間1億円程度見込まれる場合、500万円)												
[受益者] アンテナショップ等への出荷生産者および出荷業者						[想定される受益者数] 出荷生産者 1,500人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	アンテナショップを、関西における若狭全域の共有拠点として位置付ける。その上で各市町にもアンテナショップを魅力発信の場として活用してもらう。(観光案内、イベントの開催など)					他県の状況	・岡山県美作市 大阪府箕面市にアンテナショップを展開し、地産外産に加え、交流室・実習室を備え、美作地域の情報発信を実施 ・徳島県 大阪市にアンテナショップを展開 ・北海道 大阪府豊中市にアンテナショップを展開					

## 農産物の販路拡大支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	農業経営支援部		課長名	畑中康孝
事業主体	民間事業者				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算  ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	補助									経過年数		
補助率	1/2									4 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			5,000	5,000	5,000		-					
2月現計予算額の推移		5,000	0	0	0							
決算額の推移		5,000	0	0								
前年度までの 主な増減理由	令和元年度9月補正から事業開始											
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	嶺南地域の園芸産出額 (億円)	(目標) (15)	(16.2)	(17.5)	(18.7)				新ふくいの農業基本計画 目標値の内数(嶺南地域分)			
		実績 15.3	18.1									
活動指標	アンテナショップ等の開 設(件)	(目標) (1)	(1)	(1)	(1)				年1件			
		実績 1	0	0	0							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・令和4年度に出店を計画していた事業者について、異常気象に伴う原材料の出荷停止や新型コロナウイルス感染症の影響による近年の営業実績がインショップ出店のための条件に達することができず、事業実施を中止した。 ・令和3～4年度の成果指標については、翌年度に国から提供される統計データを分析し、算出する。				-				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	■ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

## 丹後くろまつ号小浜線乗入れ運行事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体		嶺南地域振興推進協議会			事務 区 分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区 分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	1/2 (嶺南広域行政組合1/2)											
福井県長期ビジョン における位置付け		分野	[ 3 楽しみを広げる(創造力) 政策 [ 9 100年に一度のまちづくり ] ]		関連する県の計画等		嶺南地域公共交通網形成計画、ふくい観光『トラ イ!』ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン ～、福井県高速交通開通アクション・プログラム					
[解決すべき問題・課題]  北陸新幹線福井・敦賀開業を控え、敦賀以西の嶺南地域への誘客に当たり、敦賀・若狭エリアと北近畿エリアとの広域観光連携が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] ・令和元年度観光入込客数 嶺南地域10,363千人、宮津市3,205千人、舞鶴市2,471千人 ・モバイル統計他都市訪問(周遊滞在)データ(2018.9.1～2019.8.31) ・嶺南地域国内来訪者2,089,465人 うち、宮津市周遊27,128人(1.3%)、舞鶴市周遊69,981人(3.3%)						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、「丹後くろまつ号」のJR小浜線乗入れ運行を継続して行うことにより、地域住民の機運醸成および小浜線を活用した嶺南地域への誘客促進を図るとともに、敦賀・若狭エリアと北近畿エリアを結ぶ新たな観光ルートの創造を目指し、北近畿との広域観光連携によるインバウンドの誘客促進を図る。												
[事業内容]  ○観光列車のJR小浜線乗入れ運行に係る経費の補助 運行日数：4日間 定員：30人／コース 開催時期：嶺南地域において大規模イベント等が開催されている時期												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 660万人(R2)						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 海湖と歴史の若狭路発信事業実行委員会(実績) ・実行委員会事業として、「御食国・和食の祭典in若狭路2019」の関連イベントで、「丹後くろまつ号」の小浜線乗入れ運行およびレストランバス運行を実施 ・令和2～3年度においては「小浜線利活用促進事業」として実施					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	・嶺南6市町が拠出した負担金で造成した「嶺南鉄道整備促進基金」を活用 ・市町によるおもてなし等の企画・実施					他県の状況		-				

## 丹後くろまつ号小浜線乗入れ運行事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	嶺南地域振興推進協議会				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	1/2 (嶺南広域行政組合1/2)											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			3,000	5,000	5,000		-					
2月現計予算額の推移			3,000	1,500	4,210							
決算額の推移			2,920	1,373								
前年度までの 主な増減理由	R3：運行日数の拡大、インバウンド向けプロモーション等の検討のため、委託費を増額											
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	乗車人数 (人)	(目標)	(216)	(216)	(216)				令和2年度：30人/便×8便×9割 令和3～4年度：20人/便×12便×9割 (感染症対策のため定員減)			
		実績	200	0	228							
活動指標	運行本数 (本)	(目標)	(8)	(12)	(12)				令和2年度：8本 (2日×3本、1日×2本) 令和3年度：12本 (4日×3本) ※コロナウィルス感染症の為、運行中止 令和4年度：12本 (4日×3本)			
		実績	10	0	12							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
・コロナの影響が心配されたが、乗車人員の目標を上回ることができた。 ・今後は、JR西日本が観光列車を運行する予定である。(令和6年秋～)				-				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	■ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

## 嶺南地域観光消費拡大事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算  □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 9 100年に一度のまちづくり ]				関連する県の計画等		[ FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ ]					
[解決すべき問題・課題] 2019年の宿泊旅行調査によると、福井県の課題のひとつに現地での消費額が少ないことが挙げられており、北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、観光客が現地に來てからの周遊を促し、消費拡大を促す必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 追加消費総額推計 福井県 174億円(全国40位) (じゃらん宿泊旅行調査2019)						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、観光客に現地に來てからの周遊を促し消費拡大を目指すため、嶺南観光LINEアプリ「とれくるPON」の機能を拡充させる。												
[事業内容] ○観光客への周遊促進による消費拡大事業 ・嶺南地域の観光情報の発信(月1回程度) ・嶺南観光LINEアプリの維持管理												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 660万人(R2)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	・市町と協力して登録店舗への選定・依頼 ・各市町の公共施設への協力					他県の状況	・愛知県観光協会 月1回程度観光情報やイベントなどの情報発信 友達登録者28,490人(R3.10.15現在)					

## 嶺南地域観光消費拡大事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平							
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度						
事業実施方法	委託																	
補助率	—																	
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等												
予算額																		
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>																		
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由											
当初予算額の推移			6,245	5,810	739													
2月現計予算額の推移			992	1,190	739													
決算額の推移			992	1,132														
前年度までの 主な増減理由	令和3年度 保守・維持管理に要する経費に加えて、クーポン集計機能の追加や加盟店の利用促進のためのPOP・のぼりを作成したことによる増額 令和4年度 保守・維持管理に要する経費のみ計上したことによる減額																	
[成果指標等の推移]																		
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠									
成果指標	経済効果（推定） （千円）	(目標)	(6,000)	(9,000)	(12,000)				経済効果推定式：クーポン発行数×3千円 (クーポン発行数については、令和3年度より実数を測定可能となった)									
		実績	5,058	9,027	1,587	3,024												
活動指標	友だち登録者数（人）	(目標)	(2,000)	(3,000)	(4,000)				毎年登録者を1千人増									
		実績	1,686	3,009	3,576	4,222												
[事業の評価]																		
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価										
・新型コロナの影響もあり、目標には届かなかったが、より訴求力の高いJR西日本の観光アプリと統合することとし、とれくるPONに掲載している観光施設等の情報を令和4年12月までに「Tabiwa by WESTER」に移行。 ・今後は、同アプリで嶺南地域の観光施設等を検索することが可能となったため、とれくるPONの運用を令和4年12月末に終了。				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額							
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了								
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他								

## 2024 嶺南誘客キャンペーン開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	久世東洋晴	
事業主体	実行委員会				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業開始年度	R4 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 10 北陸新幹線開業効果を最大化 ]				関連する県の計画等		[ ふくい観光ビジョン FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ ]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線敦賀開業の効果を最大限に活かすため、当面の終着駅である敦賀駅で降りた新幹線客を嶺南全域に誘客するための施策が必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が少ない。 令和3年度観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 6,462千人(28.3%) 福井県全体 22,848千人						
[事業目的] 令和6年3月北陸新幹線敦賀開業にあわせ、嶺南全域(敦賀以西)に誘客を図るため、「食」「海」「アクティビティ」などの嶺南地域の魅力を発信し、体感してもらい「嶺南誘客キャンペーン」を嶺南市町等と一体となって開催する。												
[事業内容] 令和4年度に実行委員会を立ち上げ、令和6年3月のキャンペーン開催に向けて準備を行う。 【令和4年度】実行委員会の開催(年6回)、企画募集、基本計画の策定 【令和5年度】実行プラン(実施・運営・広報計画)の作成、広報宣伝・開催準備、キャンペーン開催 【令和6年度】「嶺南誘客キャンペーン」の開催・運営												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 646万人(R3)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	・実行委員会の委員として県と協働して事業を実施する。					他県の状況	・佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン 2022.10.1～12.31					



## 2024 嶺南誘客キャンペーン開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室		課長名	久世東洋晴
事業主体	実行委員会			事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算  □ 補助金  ■ その他	事業 開始 年度	R4 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度	
事業実施方法	負担金								経過年数			
補助率	-								2 年			
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	50,000		25,000			25,000	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）					
[予算額の推移等]												(単位：千円)
区 分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移						5,000	50,000	R5 広報宣伝・開催準備、キャンペーン開催 (R6.3~)				
2月現計予算額の推移						5,000						
決算額の推移												
前年度までの 主な増減理由		R4 基本計画策定										
[成果指標等の推移]												
区 分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	嶺南地域への観光客入込数 (実人数)	(目標)	(442万)	(452万)	(462万)	(472万)	(482万)	(500万)		北陸新幹線福井・敦賀開業時における嶺南地域への入込数500万人を目標		
		実績	510万	337万	350万							
活動指標	SNS等閲覧数	(目標)								基本計画策定とあわせて最終目標を設定		
		実績										
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
5月 2024 嶺南誘客キャンペーン実行委員会発足 12月 2024 嶺南誘客キャンペーン基本計画骨子作成 新型コロナウイルスの影響により、嶺南地域への観光客入込数は低調に推移しており、開業効果を最大化するための積極的な誘客促進が必要。				北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせ、2024 嶺南誘客キャンペーンの開催時期を前倒し（令和6年4月→令和6年3月）				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 三方五湖エリア広域バス実証運行等支援事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	三方五湖エリア全体協議会 等				事務 区 分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区 分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助金							<input checked="" type="checkbox"/> 補助金				
補助率	1/2 等							<input type="checkbox"/> その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 10 100年に一度のまちづくり ]				関連する県の計画等			福井県三方五湖エリアステップアッププログラム、嶺南地域公共交 [ 通網形成計画、ふくい観光『トライ!』ビジョン、FIRST291～北陸 新幹線開業プラン～、福井県高速交通開通アクション・プログラム ]				
[解決すべき問題・課題] 三方五湖エリアにおける駅からの公共交通がコミュニティバスなどに限られる ため、公共交通機関で来県する方々などの移動の利便性向上を図ることが課題で ある。						[問題・課題を表す客観的データ] ・小浜線のダイヤ減少により嶺南地域における広域的な移動の利便性が減少した。 ・美浜駅、三方駅から観光地への移動手段はタクシー等に限定される。 ・レインボーラインでは無料化前から、繁忙期に料金所等での渋滞が見られた。						
[事業目的] 三方五湖エリアにおける観光客の周遊促進を図るため、二次交通の検証や周遊促進対策を支援する。												
[事業内容] 公共交通機関で来県する方々の移動の利便性向上を目的とした実証バスの運行や、マイカー・レンタカー等による周遊促進を目的とした主要観光施設等駐車場の混 雑情報配信を支援する。  (1) 実証バス(ゴコイチバス)運行支援(敦賀駅または美浜駅を出発し、三方五湖を一周して美浜駅、敦賀駅に戻るルート) 〔運行期間〕GW、9月～11月、3月(運行日数49日間)※9月～11月、3月は土日祝日に限定して運行 〔実施内容〕実証バスの利便性等に関する調査を支援 (乗客に対するアンケート調査/乗降調査) 利用促進対策、認知度向上対策を支援 (デジタルチケット・企画チケットの造成/バスロケーションシステムの導入/パークアンドライドの推進/実証バスのPR 等)  (2) 主要観光施設駐車場の混雑情報配信支援 主な観光施設駐車場の混雑状況をHPやデジタルサイネージで配信する仕組みの構築を支援 (専用アプリの開発、情報配信するためのHPの作成、県所有デジタルサイネージを活用した情報配信)												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 646万人(R3)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

## 三方五湖エリア広域バス実証運行等支援事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	三方五湖エリア全体協議会 等				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	1/2 等											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	10,013			(繰入) 9,494	519	地域振興基金 (若狭湾快速鉄道の建設基金)						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位: 千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移				4,508	5,496	10,013	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証バス運行日数の拡大による増額 (31日間 → 49日間)</li> <li>・主要観光施設駐車場の混雑情報配信を新たに支援することによる増額</li> </ul>					
2月現計予算額の推移				3,543	5,496							
決算額の推移				2,940								
前年度までの 主な増減理由		R4: 実証バス運行日数の拡大による増額 (18日間 → 31日間)										
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	バスを運行する事業所 (件)	(目標)		(1)	(1)	(1)			採算可能な料金と利用者数を確保し、令和6年度以降に民間事業者によるバスの継続的な運行を目指す			
		実績		1	1							
活動指標	運行本数 (本)	(目標)		(180)	(248)	(392)			令和3年度: 9本/日×20日間 令和4年度: 8本/日×31日間 令和5年度: 8本/日×49日間			
		実績		162	248							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証バス (ゴイチバス) の運行支援として、令和4年9月17日 (土) から12月11日 (日) の土日祝日に運行 (31日間)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証バス (ゴイチバス) の運行支援として、新幹線開業に合わせて運行するなど運行期間を拡大し、企画チケット、デジタルチケットの造成など利用促進対策を充実</li> <li>・主要観光施設駐車場の混雑情報配信を新たに支援</li> </ul>				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

## 嶺南地域の新たな誘客素材活用促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算  □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R4 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 3 楽しみを広げる(創造力) ] 政策 [ 9 100年に一度のまちづくり ]				関連する県の計画等		[ FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ ]					
[解決すべき問題・課題]  新幹線の終着地となる敦賀駅の先に位置する嶺南地域は首都圏での知名度が低いため、新たな切り口により観光他としての関心を高める必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  嶺南地域への観光客の多くが関西・中京からであり、首都圏等関東からの観光客が全体に占める割合は3%程度と少ない。 令和2年度嶺南地域観光客入込数 総数417万人 うち、関西・中京圏342万人、首都圏15万人						
[事業目的] WAKASA発掘調査隊が発掘した嶺南の知られざる魅力を組み合わせたモデルコースを造成し、令和5年度における旅行商品化を目指すため新たな観光の魅力を検証する。また、発掘調査に関心のある若者を県内外から募集し、若者による発掘結果等を公式ブログで継続的に配信することで、嶺南地域を巡る旅への関心喚起を図る。												
[事業内容]  (1) モニターによるモデルコースの検証を実施 ・住民お薦めの史跡、食、まちなみ、景観等を活かした周遊モデルコースを造成 ・嶺北在住者等公式ブログフォロワーなどからモニターに適した人材を募集 ・モニターがモデルコースを体験し、アンケート、ワークショップを通して、商品化に必要な受入体制やコースを検証  (2) 県内外の若者による発掘調査・情報発信 ・知られざる魅力の発掘に関心ある若者を県内外から募集 ・若者による発掘調査、取材記事の作成をWAKASA発掘調査隊(発掘チーム)がサポートし、記事を公式ブログで配信												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 660万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	令和3年度に実施するWAKASA発掘調査隊には嶺南6市町からサポートメンバーとして嶺南6市町の職員や民間の若者が参加しており、地元市町と共に新たな魅力の発掘を進めている。					他県の状況	—					

## 嶺南地域の新たな誘客素材活用促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	田淵洋平	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R4 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移					3,208		—					
2月現計予算額の推移					3,208							
決算額の推移												
前年度までの主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	新たな素材による旅行商品の造成 (目標) 実績				(1) 1				旅行商品としての販売に旅行者が関心を示すコースの造成を目指す			
活動指標	新たな素材によるモデルコースの造成 (目標) 実績				(3) 4				年3件			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
(1) モニターによるモデルコースの検証を実施 新たな素材を組み合わせたモデルコースを4コース作成し、モニターによる検証を実施した。  (2) 県内外の若者による発掘調査・情報発信(令和5年3月3日時点) 公式ブログ記事掲載数：19本 公式ブログアクセス数：33,890件				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		